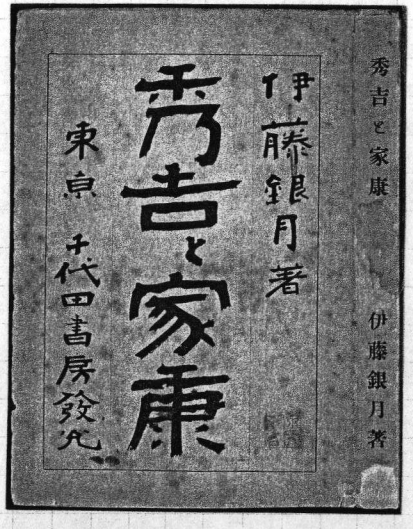
伊藤銀月（いとうぎんげつ）　評論家、小說家。明治四年十月二十一日羽後國生れ、昭和十九年一月四日歿（一八七一―一九四四）。本名銀治。筆名伊藤銀月、嗤嘲妖僧、銀、銀月劍俠、銀月狂生、靡靡天等。縣立秋田中學校中退。のち『萬朝報』記者など。

著書『美的小社會』（明治二十五年十一月十五日新聲社）、『處世秘訣』（明治二十六年五月五日人民新聞社出版部）、『東京對大阪』（明治二十六年五月二十五日新聲社）、『百字文選』（明治二十七年五月五日、增補五版・十月十五日如山堂書店）、『百字文の栞』（明治二十七年六月二十八日日本文章學院。再刊・二十八年六月二十八日文學商志會）、ブランジン作『印度奇談』（譯、明治二十七年八月九日金港堂書籍株式會社）、『續百字文選』（明治二十七年十月十日如山堂書店）、『日本海賊史』（明治二十七年十一月七日隆文館）、『りゝ影』（明治二十八年一月七日如山堂書店）、『當世二百人・第一卷』（明治二十八年四月二十八日隆文館）、『海國日本』（明治二十八年九月五日隆文館）、『太閤記』（明治二十八年九月二十五日文綠堂書屋）、『世界女性史』（明治二十九年二月二十五日隆文館）、『男女觀』（明治二十九年四月二十五日百藝雜誌社）、『百字文粹』（選、明治二十九年五月五日百字文會）、『暦黑日本史』（明治二十九年六八

月二十三日付、隆文館發賣）、伊藤大纓編『文士實典』（大町桂月共刪修、明治三十九年十月二日付高有倫堂）、『五十三次草鞋日記』（明治四十年五月二十五日金尾文淵堂）、紀行『海草』（内題「うみ艸」編著、明治四十年八月二十日左久良書房）、『萬國歷史要領』（明治四十一年八月二十八日付高有倫堂「机上圖書館」）、『文學概說』（明治四十三年三月二十五日付高有倫堂「机上圖書館」）、『怒濤』（明治四十三年四月二十五日付高有倫堂）、『山陽道中草鞋日記』（明治四十三年五月十一日梁江堂）、『秋田みやげ文名噴々』（合著・青柳有美編、明治四十三年八月八日秋田・大島商會）、『秀吉と家康』（明治四十三年十月八日千代田書房・阪大杉本梁江堂）、『伊藤博文公』（明治四十三年十一月五日千代田書房・阪大杉本梁江堂）、『海舟と南洲』（明治四十三年十一月十八日千代田書房・阪大杉本梁江堂）、『秀吉と家康（後編）』（明治四十三年一月十一日千代田書房・阪大杉本梁江堂）、『日本風景新論』（明治四十三年四月七日前川文榮閣）、『日本名勝史蹟』全二冊（天の巻、地の巻・明治四十四年四月十七日前川文榮閣）、『水滸傳物語』（明治四十四年五月四日鈴木書店）、『人情觀的明治史』（明治四十五年五月十三日文榮閣書店）、『大正一世の豫言』（大正元年九月十一日至誠社出版部）、『明治青年思想變遷史』（大正元年十一月十五日前川文榮閣）、『女五人』（伊藤銀二名、伊藤鶴子合著、大正二年五月十五日使利堂書店）、『亮成大日本民族史』（大正二年九月十



（日隆文館）、『日本警語史』（再版・大正七年十月、二十五日實業之日社）、『新譯源平盛衰記』（内題「新編源平盛衰記」昭和四年、二月、二十日松榮堂）、『不死人』（昭和十五年九月、二十五日、三教書院）、吉田松陰著『校正幽囚錄』訓讀、解説、昭和十七年、二月十八日朝日書房）等。